

平成28年度 やまがた農商工連携ファンド事業採択状況一覧(第2次募集)

1 農商工連携事業(補助率:2/3、限度額:300万円/1事業、事業期間:3年以内)〈◎印は連携体事業者の代表者〉

	区分	農林漁業者	所在地	中小企業者等	所在地	事業計画名	事業期間	事業概要
1	海外展開支援	福原富雄	鶴岡市	◎株式会社 WAKAZA	鶴岡市	県産の幻の酒米「酒の華」で醸造する、洋食と楽しめる日本酒の開発・海外展開	1年	福原富雄は、米、枝豆等を中心に大規模に生産し、冬期間は酒造りを10年間行ってきている。特に、幻の酒米「酒の華」を3年前から、地元の酒造会社等の協力を得て栽培してきており、高付加価値で収益性の高い酒米の生産と日本酒の海外展開の必要性を感じていた。一方、(株)WAKAZEは、日本酒の自社ブランド商品を展開してきており、海外市場への輸出を見据えた洋食のレストランシーンに合う日本酒の開発企画を進めてきた。今回、両者が連携して、一度はなくなったがそれを種籾から復活させた「酒の華」のストーリー性と味わいの特性的な価値を海外市場でも受け入れられるような洋食と楽しめる酒質設計の商品ORBIAの開発を行うとともに、海外での販路開拓を行う。
2		増坂農場 代表 増坂賢一	鶴岡市	◎株式会社 純華	鶴岡市	山形県産輸出米を使った白味噌の海外生産と販路開拓事業	3年	増坂農場は、米の有機JAS認定を取得し、有機栽培米の生産を行っている。一方、株式会社純華は、保存期間の関係から日本からの輸出が難しい「白味噌」をフランスで現地生産する事業を計画してきた中で、増坂農場の有機栽培米のインターネット販売を行ってきたつながりがあったことから、フランスに味噌用の米を輸出できないか模索してきた。今回、両者が連携して、米の割合が多い白味噌を念頭に、高タンパク質で多収品種であり東北地方の栽培適地品種の「べこあおば」を使用し、山形県産米を主原料として製造する米味噌、旨みを得るタンパク源にはフランス産大豆、豆乳工場から提供を受けるオカラや豆乳を利用するMade by Japan商品としての商品開発と現地での販路開拓を行う。
3	新商品・新サービス開発支援	◎株式会社 蔵王園	山形市	株式会社 グレープリパブリック	南陽市	果樹王国ならではの安心安全やまがたブランド「ドライフルーツログ」の商品開発と販路開拓	2年	株式会社蔵王園は、ぶどう、さくらんぼ、プラムなどを栽培し、平成21年に認定農業者を取得、平成26年には法人化するとともに、果樹の生果出荷分の歩留まり向上と規格外品を活用したドライフルーツログの開発を進めることで、付加価値の高い農業を目指していた。一方、グレープリパブリックは、ワインぶどうの生産とワイン醸造を行うとともに、高級レストランや他のワイン卸企業などへの販路を持っていることからワインとともに楽しめる食材を探していた。今回、両者が連携して、山形の農家が一貫生産する安全安心がみえる「珍珠」としてドライフルーツログは商品価値があると捉え、商品試作へのアドバイス、レストラン経営者や食材バイヤー等へのアンケート調査などによる商品開発と販路開拓を行う。
4		◎果実の森 スズキ 代表 鈴木茂	大江町	株式会社 大江町産業振興公社	大江町	山の恵み三役・山葡萄、マタタビ、サルナシの「フォレストビネガー」(果実酢シリーズ)の商品開発と販路開拓	2年	果実の森スズキは、リンゴやラフランス、米等を生産販売し、平成5年に整備した加工場で地元個人顧客を中心とした果汁生産や委託生産を行ってきた中で、平成26年から栽培を始めたマタタビ・サルナシを活用した果実酢の商品化を目指していた。一方、株式会社大江町産業振興公社は、温泉施設や地元産品を販売する直売施設を管理しており、町内農商業者の6次化商品の販売力向上にも協力してきており、これまでも果実の森スズキの加工品を販売してきた。今回、両者が連携して、地元では山葡萄・マタタビ・サルナシは「山の恵の三役」と言い伝えられていることから、健康志向としてのフォレストビネガー(果実酢)を開発し、地域ブランド商品として販売展開していく。
5		白鷹紅の花を咲かせる会 代表 今野正明	白鷹町	◎紅花音羽屋 代表 石井美由紀	白鷹町	紅花黄色素染料の開発と紅花香黄染め要送品開発	2年	「白鷹紅の花を咲かせる会」は、紅花生産者で組織する生産組合であるが、生産担い手の後継者問題が大きな課題であった。一方、紅花音羽屋代表の石井美由樹は、紅花の花弁を発酵させて作る紅餅製造の際に溜る抽出液に着目していた。この液は匂いが強いために廃棄されていたが、これを染物として活用できないか試験していた。今回、両者が連携して、紅餅製造過程での紅花有用液を安定的に供給できる生産体制をつくるとともに、この有用液を染物として実用化するための「紅花香黄染め」としての染料の安定化及び粉末化紅餅製造の技術開発と紅花の贈り物としてのファッション性を供えた洋装品商品開発を行う。
6		歌丸燦工房塚田農園 代表 塚田久美子	長井市	◎株式会社 生活クラブ	米沢市	「キクイモ」が世界人類を救う!「効くイモ」による健康長寿「幸運ひっぱりうどん」の加工品・ご利益駅弁「益弁」による新商品開発事業	2年	塚田農園は、食の安全や健康志向を目指して多種多様な農産物を栽培してきており、特に「キクイモ」は、主成分のイヌリンが糖質の吸収や脂肪を吸収しにくくする効果や「キクイモ」の水溶性食物繊維が便秘を解消する働きなどがあるといわれていることからキクイモ栽培に取り組むとともに、加工品の開発を模索していた。一方、株式会社生活クラブは、安全安心な牛乳をはじめとした食材の提供を行うとともに、健康長寿、ダイエット、美容などに期待でき化学肥料や農薬を使用しない農作物の加工品による新商品を模索していた。今回、両者が連携して、楽しみながら自然に健康食を味わうをコンセプトに「健康幸運ひっぱりうどん」や地域観光資源とタイアップした「ご利益駅弁」の商品開発を行う。
7		やはたそば研究会 代表 荒生 隆	酒田市	◎株式会社 出羽	酒田市	庄内産のそばと食材を活用した新たな食文化の提案＝ガレットのある食卓＝	3年	やはたそば研究会の荒生隆は、そば、米を大規模に栽培しており、特に、そばは地元の加工業者と契約栽培し収入の安定化を図るとともに、そばの消費拡大につながる取組みを模索していた。一方、株式会社出羽は、日本そば専門店として「手打ちそば出羽」を経営しながら、蕎麦どぶろくを商品化するなど、蕎麦の消費拡大を行ってきており、いわゆる「そば切り」の形状とは異なった新たな商品化を検討していた。今回、両者が連携し、庄内の食材を使った特有のガレットを商品開発することにより、「そば」の新たな顧客の創造を図り、そばの消費拡大につなげるとともに、そば処山形の認知度を高めることを目指していく。
8	有限会社 仁三郎	鶴岡市	◎有限会社 グローバルアイ	鶴岡市	庄内浜の魚介と米麴等を使った粉末調味料および旨だし加工食品の開発と販路開拓	2年	有限会社仁三郎は、庄内浜で定置網漁を営んでいるが、乗組員を含む漁業従事者不足が深刻であるとともに、季節の変わり目による大時化で網が破損するなどの自然災害を受けやすいことから、経営安定の一貫として魚介の焼き干しや一次乾燥などの一次加工を手がけてきた。一方、有限会社グローバルアイは、県産農産物を使ったレトルト食品などを製造販売しており、国内のみならずフランス等の海外輸出も手がけている中で、新たな商品開発を模索していた。今回、両者が連携して、庄内産魚介の一次加工品を原料とした「欧州向け粉末調味料」や「出汁リゾット」の商品開発と市場調査・販路開拓を行う。	
9	株式会社 グリーン渡会	鶴岡市	◎株式会社 出羽庄内	鶴岡市	高品質庄内米と庄内特産物のコラボによる新感覚の押し寿司商品開発	2年	株式会社グリーン渡会は、平成28年に農業法人化し、米やハウスきゅうりを栽培しており、特に精米プラントと保管庫を完備し、高品質で食味を落とさない精米した米を消費者に提供している。一方、株式会社出羽庄内は、庄内の優れた農林水産品及び加工食品のPRと販路開拓することを目的に、平成27年に庄内の有志が出資して新規創業したもので、高品質な庄内米の高付加価値化と消費拡大のため、米のおいしさを実感できる新感覚の押し寿司の商品開発を検討していた。今回、両者が連携し、それぞれの寿司飯に適した米の品種の選定やブレンド・精米方法の検討、庄内特産物のコラボによる各種の押し寿司の商品開発を行うとともに、出資者の豊富なネットワークを活かした販路開拓を行う。	

2 農商工連携支援事業(補助率:10/10、限度額:200万円、事業期間:2年以内)

	申請事業者	所在地	事業計画名	事業期間
	該当なし			